

CSR REPORT 2024

NIKKEI PRINTING INC.

特集

昭和から平成、令和、そしてその先へ

日経印刷60年のあゆみ



特集

昭和から平成、令和、そしてその先へ 日経印刷 60年のあゆみ



鉄筋コンクリート造4階建て、
延べ床面積 336.54㎡の新本社ビル



新しく建てた自社社屋の前で
(1970年ごろ)



マンションの1階と地階を借り受けた当社第2の工場、
板橋工場



板橋工場内部



初代深川工場

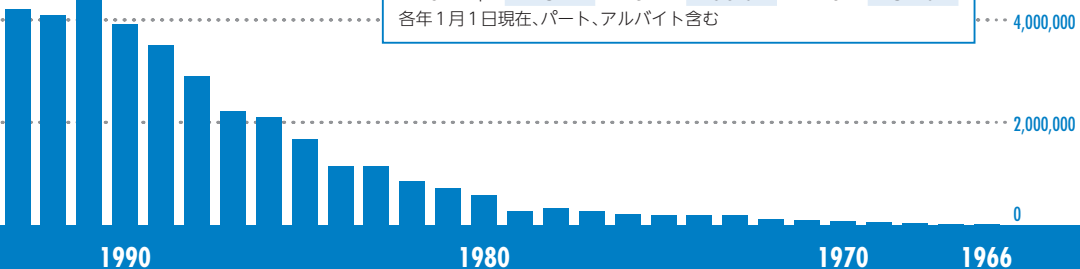
売上高

(千円)
12,000,000

従業員数

	合計 (名)	男性 (名)	構成比率	女性 (名)	構成比率
2014年	403	296	73%	107	27%
2015年	411	294	72%	117	28%
2016年	410	293	71%	117	29%
2017年	435	299	69%	136	31%
2018年	432	301	70%	131	30%
2019年	444	307	69%	137	31%
2020年	457	313	68%	144	32%
2021年	461	314	68%	147	32%
2022年	457	306	67%	151	33%
2023年	422	292	69%	130	31%
2024年	432	292	68%	140	32%

各年1月1日現在、パート、アルバイト含む



1964年10月10日土曜日、その日は、日本にとっても、
私たち日経印刷にとっても忘れない日。
アジア初のオンラインピククの開催により日本中がオン
ピクムード一色に包まれたその日、日経印刷が最初の
一歩を踏み出しました。
創業以来、いかにお客さまのお役に立てるかを必死で
考え、お客さまの想いをカタチにしてみました。その想い
はこれからも変わらず、私たちは「今日より明日」の精神
を胸に、人の想いをカタチにしていきます。

1964-1983

- 1964 10 第18回東京オリンピックが開幕した10月10日、日経印刷の前身となる日経プリントを千代田区飯田町2丁目(現・飯田橋4丁目)に創業
初仕事として三菱重工業「本社労組ニュース」を受注
- 1966 5 株式会社日経商会として株式会社組織に変更
千代田区飯田町1丁目(現・飯田橋2丁目)に2階建ての木造自社社屋を建設
- 1970 2 株式会社日経製版設立、製版事業を開始
- 1971 千代田区飯田橋2-16-2に本社を移転
- 1972 7 日本軽印刷工業会(現・一般社団法人日本グラフィックサービス工業会)に加盟
- 1973 2 千代田区西神田のビル1階を借り受け、ハイドルベルグ社製A全判単色オフセット印刷機SORDを2台導入、三崎町の工場と称された当社第1号の工場(1977年に本社ビルの並びに移転)
- 1975 2 社名を日経商会から日経印刷株式会社に变更、印刷関連事業に集中する方針を固める
- 1977 3 木造社屋を建て替え、鉄筋コンクリート造の本社ビル竣工
- 1978 5 板橋区若木に板橋工場を開設
- 1980 3 江東区冬木に初代深川工場を開設
- 1981 1 中央区八丁堀に製版専門の八丁堀製版センターを開設(1994年の移転に伴い、名称を茅場町製版センターに代えて再出発。2000年6月閉鎖)
- 1982 10 江東区平野に二代目深川工場を竣工
現用の正規ロゴマークを作成

日経印刷株式会社



鉄筋コンクリート造3階建て、延べ床面積1,009.30㎡の主力工場として開設した二代目深川工場

特集

昭和から平成、令和、そしてその先へ

日経印刷60年のあゆみ



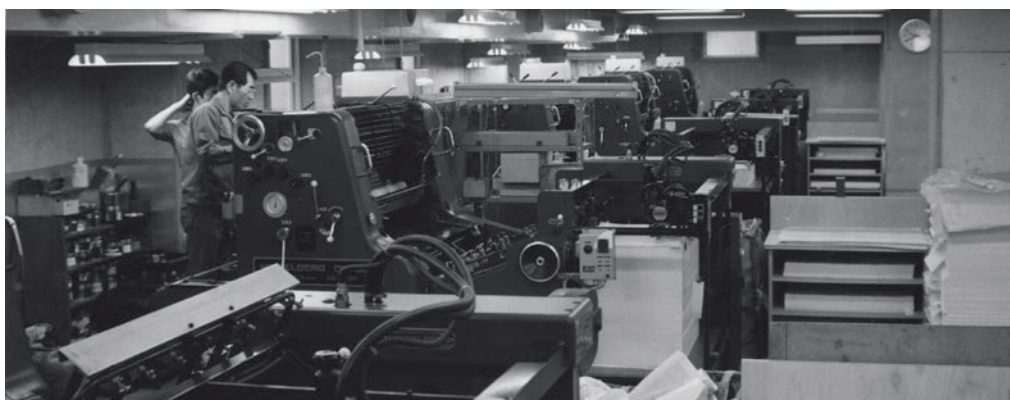
移転により名称を茅場町製版センターに変えて再出発



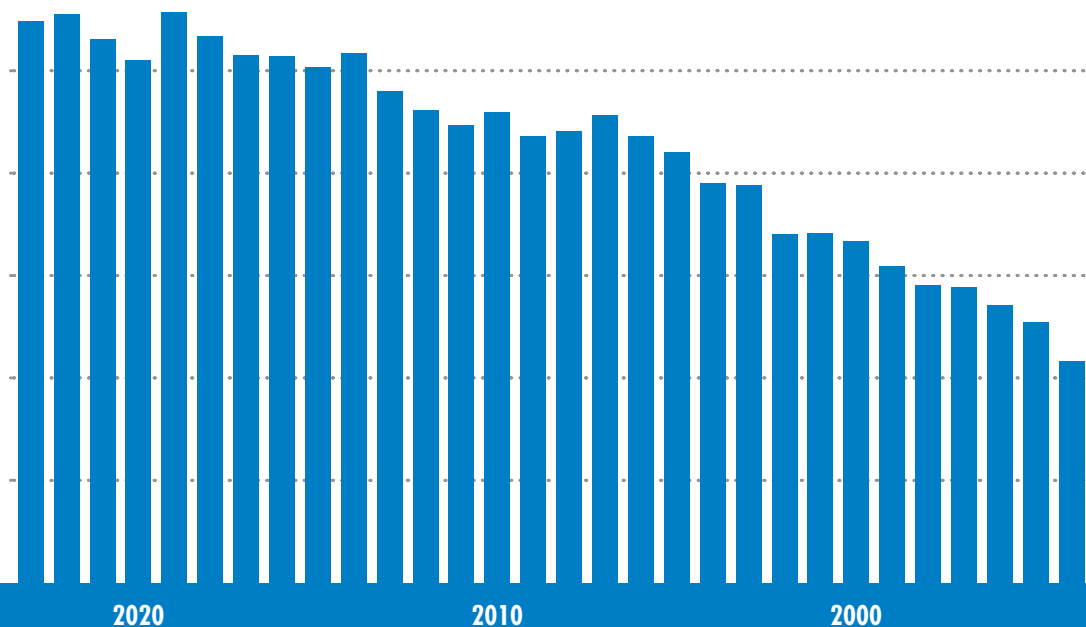
茅場町製版センター OPENを告げるチラシ



新大橋通り八丁堀駅前交差点角の酒店2階にあった八丁堀製版センター



印刷フロアには新規に導入した3台のSORDをはじめ移設された初代深川工場のすべての設備が配備された



1984-1995



深川工場に設置された国内第2号の採用事例となる
オペチ・インボーザーカメラ



八丁堀製版センター同様、「高品質・低価格・短納期」を
旗印に神田駅近傍に開設された神田製版センター



プリンティングセンターの稼働により、板橋工場、深川工場
を含めて3工場体制となった。同年4月には生産体制を
維持するため、新卒社員を一挙に50人を採用した



DTPの走りといえるJ-Star。社内LANで結びデータ
の共有を行うもテキストデータしか扱えず、画像は
出力後に手動で貼り込んで対処した



オペチカメラを前面に押し出した
Page Composing Studio早稲田センター



業務の拡張とともに散在する各部署を集約、
10年ほどをかけてビルの全フロアを借り受けた



Windows DTPの現場。Office系データからの出力
ノウハウはWin DTPグループにより磨き上げられ、
蓄積されていった(撮影:2000年)



体制の拡大に合わせ、人員も増強。1994年には25名
を擁する体制に



新しいマニュアル制
作システムの検討・
開発と営業支援を主
な目的に設立したド
キュメントサイエン
ス研究所の紹介パン
フレット

主力工場として高性能なハイドルベルグ社製
印刷機を取りそろえている点をアピールする
ため、同社了承を得て「ハイドルベルグ
フロント」と命名

- 1984 11 千代田区内神田に製版専門の神田製
版センターを開設(2000年1月閉鎖)
- 1985 2 深川工場にオペチコピー社製イン
ボーザーカメラシステムを導入
- 1986 4 富士ゼロックス社製ワークステ
ーションJ-Star IIを導入、電子組版の
先鞭をつける
- 1987 2 江東区平野にプリンティングセン
ターを竣工。2012年3月にすべて
の生産機能をハイドルベルグフロン
トに統合し、閉鎖。現在はタナカ印刷
株式会社様本社ビルとして稼働中
- 4 新卒社員50名を採用、社員数は150
名となる
- 10 パソコン通信を利用したオンライン
プリンティングサービスを開始
- 1988 11 本社ビル隣の立野ビルに本社機能お
よび営業部門、製版部門を集約。後年
全フロアを借り受け、現在も本社機
能を有する
- 12 翻訳制作室を設立、機械翻訳業務を
開始
- 1989 6 株式会社日経製版を日経製版株式会
社に登記を変更
- 7 文京区関口に3拠点目の製版専門の
Page Composing Studio早稲田
センターを開設(2000年7月閉鎖)
- 1990 5 翻訳制作室を改め、機械翻訳セン
ターとして開設
分野別専門用語約17,000語からなる
日経辞書が完成
- 10 テクニカルライターを中心メンバー
とするマニュアルライティングセン
ターを設立
- 12 ドキュメント・エンジニア課、制作
課、機械翻訳センターを統合して制
作部を開設
- 1991 4 完全週休2日制を導入
アップルコンピュータ(現・アップ
ル)社製Macintoshを導入、DTP
(Desk Top Publishing)業務への
取り組みを開始
- 1993 4 マニュアルライティングセンターを
母体にドキュメントサイエンス研究
所を設立(1994年9月解散)
- 1994 6 深川工場の名称を「ハイドルベルグ
フロント」に改める。2017年の浮間
工場リニューアルにより統合、閉鎖。
現在は東京リスマチックSDS深川
として稼働中
- 1995 6 “白書の日経印刷”第1号の環境白
書を納品
MacintoshによるDTP制作業務を
正式に開始



“白書の日経”の最初
の一歩となった
平成7年版「環境白書」

1996-2006

- 1996 1 Windows DTPの専門チーム設立、Officeデータの印刷物への活用に取り組む
- 3 大日本スクリーン製造(現・SCREEN)社製A1判イメージセッターDT-R3100を導入、翌1997年4月には同社製B2判イメージセッターDT-R3075を導入し、DTP出力業務に対応
- 1997 7 北区浮間に浮間工場を竣工、印刷から製本までの一貫生産体制を構築。2017年にリニューアル
- 1998 3 浮間工場印刷課で当社初の2交代制による夜間勤務の検討を開始、同年6月より実施
- 4 自動組版で制作した日経BP社「日経BPデジタル大辞典」の初版発行
営業担当者全員にパソコンを支給、全社的なシステムの構築に向けてITインフラ整備に着手
- 1999 11 日経製版株式会社にグラフィックコミュニケーションズ株式会社に社名変更、マニュアルの制作をライティングから印刷まで請け負う一貫サービスを開始
- 2000 11 日経印刷宇都宮事業所開設(2009年6月閉鎖)
- 2001 CTPカラー事業部を設置し、カラー印刷の生産体制を構築(2002年1月に解散、既存組織に合流、再編)
- 8 業務の一元管理を支える基幹システム「プリントステーション」を自社開発、運用を開始。2008年1月には社内基幹システムの機能をすべて縫合した「プリントステーション2」が完成
- 11 品質マネジメントシステムISO9001(2000年版)認証を取得。2010年11月に更新を見送り、自社のマネジメントシステムを運営
- 2003 5 デザイン部門としてクリエイティブ室を新設
- 12 環境マネジメントシステムISO14001認証を取得
- 2004 7 第二印刷部カラー印刷課、制作部出力課CTPチームで3組2交代制を開始
- 2006 6 プライバシーマーク認定を取得



営業部員を対象に配布されたクリエイティブ室の誕生を告げる小冊子。提案力と迅速に対応できる体制がスタート

特集 昭和から平成、令和、そしてその先へ 日経印刷60年のあゆみ



鉄筋コンクリート造地上3階・地下1階建て、延床面積2,300㎡を誇るとも空調と騒音に万全を期した浮間工場(写真はリニューアル後)



初のCTPカラーの設備としてハイデルベルグ社製菊全判8色両面兼用機 Speedmaster SM102-8P(左)を2台、サーマルCTPレコーダー Trendsetter3244V AL(右)を2台導入



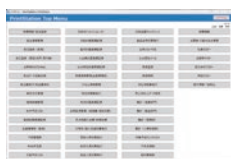
イメージセッターによるフィルム出力の受注促進をねらって作成されたパンフレット



リニューアルされたハイデルベルグフロント。中央から右側が増築された新館、左側旧館にも4階部分が増床された



旧館に増床された4階はCTPカラー事業部の中核、デジタル製版のオペレーションルームとなった



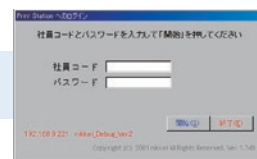
現在のTOPメニュー画面。現在も日々機能強化が続けられている



現在のログイン画面



初代の「Print Station」では、メインメニューが部署単位に分類されていた



初代「Print Station」のログイン画面



環境マネジメントシステム ISO14001 認証



プライバシーマーク登録証



グラフィックサービス工業の技術力向上やマーケットへのアピールを目的として一般社団法人日本グラフィックサービス工業会が開催するジャグラ作品展にて入賞

2007-2014

「グラフィックガーデン」の命名には、「グラフィック(=広義での印刷)を志した人たちがこの場に集い、技術を磨き、美を追求して、立派な作品を世に送り、社会を豊かにしていこう」との思いが込められている
<https://www.nik-prt.co.jp/company/graphicgarden/>



Japan Color
「標準印刷認証」



グリーンプリンティング
工場認定証。



情報セキュリティマネジメント
システムISO27001認証



現在の「出版情報サイト」の画面。当社が手がけ、発行している白書や広報誌などの出版物のご紹介、検索も可能となっている
https://www.nik-prt.co.jp/wp_site/



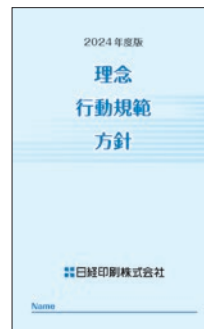
当社の環境への取り組みや社会の持続可能性を高めるための活動などをまとめ、2012年から毎年発行している「CSRレポート」の第1号
<https://www.nik-prt.co.jp/csrreport/>



◀スイッチやコントローラの横に掲示されているNeco Projectカード。電気使用量、電気料金、CO₂排出量が掲示され、社員への意識付けに生かしている



製菓チームの企画によって立ち上げた現在の学会用チラシ専用サイト「デザインガーデン」画面
<https://www.nik-prt.co.jp/design-garden/contents.rb?contents=usage>



企業理念、行動規範およびその年度の経営方針のほか、品質・環境・ISMSの各基本方針、個人情報保護方針がカードサイズ8ページにまとめられ、ポケット版として全社員に配布される



長野県中野市に開設されたDTPスタジオ(現・クリエイティブスクエア)の外観と内部。内部の仕器はG2、本社と同じものが採用され、内装もほぼ同じイメージで統一されている



第11回印刷産業環境優良工場表彰にて経済産業大臣賞受賞時の表彰状および盾とトロフィー



10月18日にホテル椿山荘東京・オリオンで行われた「創業50周年感謝の集い」。社員、OBが一堂に会し50周年という節目を楽しんだ



10月10日に帝国ホテル東京・孔雀の間で行われた「創業50周年 感謝の会」。500名にも及ぶ来賓の方々を招待し、盛大に行われた

創業50周年記念事業
に際して作成された
ロゴ



- 2007 4 出版コード取得後、内閣府より初めて「男女共同参画白書」の直接受注に成功
- 7 森林の生物多様性や地域社会に配慮してつくられたと認められた製品である証のFSC(CoC)認証を取得
- 2008 8 板橋区舟渡にグラフィックガーデンを竣工、制作～製版～印刷～配送のワンストップサービスの提供体制を確立、同年10月に稼働開始
- 12 印刷通販株式会社を設立、翌2009年に印刷通販サイト(のちのユアプレス)をオープン(2014年8月閉店)
- 水なし印刷を通じて環境にやさしく、高品質な印刷物の提供を目的に環境保全・事業発展・普及活動に取り組む一般社団法人日本WPA(日本水なし印刷協会)に加入
- 2009 10 情報セキュリティマネジメントシステムISO27001認証を取得(本社、グラフィックガーデン)

Neco-Project(Nikkeiによるeco活動)を立ち上げる。有志が始めたプロジェクトが全社運動に

- 2010 1 企業理念・方針のポケット版を作成、従業員に配布
- 7 社内のCTF出力業務を廃止、CTF部門をCTP部門に吸収
- 2011 3 東日本大震災発生、グラフィックガーデンの印刷設備に支障が生じ、5日間稼働停止
- 4 長野県中野市にDTPスタジオ(現・クリエイティブスクエア)開設
- 11 各部門で「リフレッシュ定時退社」を開始
- 医薬品メーカーなどに向けた医学系学会用のチラシ作成Webサイト「デザインガーデン」を開設
- 2012 3 グラフィックガーデンがグリーンプリンティング工場に認定
- 4 ISO国際基準に準拠し、日本のオフセット印刷における印刷の標準に基づいて認証を行うJapan Color「標準印刷認証」を取得。同年11月に「ブルーフ運用認証」、翌2013年9月に「マッチング認証」を取得

- 5 CSRレポート第1号を発行、以降毎年発行
- 9 グラフィックガーデンが第11回印刷産業環境優良工場表彰にて経済産業大臣賞受賞
- 11 CSRセミナーと環境優良印刷工場見学会(現・ESGセミナー[https://www.nik-prt.co.jp/csr/seminar24_03.html])をグラフィックガーデンで開催。2024年10月末日で40回開催
- 2014 1 創業50周年を迎えるにあたり、「Next50! Change_Challenge_Chance」をスローガンに掲げる
- 7 NRIプロセスイノベーション株式会社との合併で金融業界向けのレポート作成サービスを行うNRIフィナンシャル・グラフィックス株式会社を設立



- 10 創業50周年を迎え、取引先をお招きして感謝の会、従業員・家族を対象に感謝の集いをそれぞれ開催

2015 6 製品ごとに行う設定の切り替え時間短縮を図るモーションコントロール技術を採用した全自動無線綴じ機「アレグロ」を日本初導入。2017年8月に製本時の段取り替えプログラム「アレグロチャレンジ」にて同様のジョブ環境において世界で一番早いことが確認された
<https://www.nik-prt.co.jp/information/info031.html>



全自動無線綴じ機「アレグロ」

10 創業50周年記念誌発行
 12 オンライン校正システムEQUIOS Onlineを導入、稼働

2016 1 生産管理部内に生産統括課を新設
 男性社員として育休を初取得

2017 災害時のもしもの場合に備え、安否確認システムを導入

2018 1 ジャスダック(現:東京証券取引所スタンダード市場)上場企業の株式会社日本創発グループに経営参画、協業によるシナジーの創出をめざす



エレベーターの行先階ボタンを指に代わって押す「わんにゃんプッシュ」



手洗いを促すシール(左)とスイングポップ(右)



「今日より明日」の気持ちを胸に半世紀の足跡を記した「創業50周年記念誌」



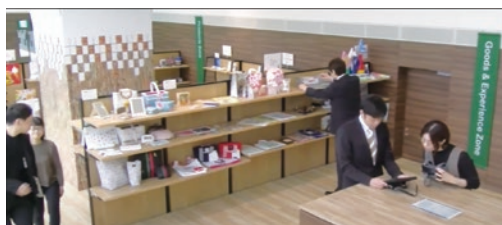
グラフィックガーデンの菊全判カラー印刷機すべてをより高品質で環境負荷低減に貢献するLED-UV印刷機に更新

2020 コロナ禍による新しい生活様式に向けた販促ツールを生産開始

2021 1 制作部にNP CREATIONを新設し、映像制作、オンライン配信サポート業務を開始

オフィシャルホームページにWebを活用した工場見学会コンテンツ「バーチャル工場見学へご招待!」をオープン

2022 1 グラフィックガーデン1階に日本創発グループ各社の製品や見本類を展示した「グラフィックガーデン・グループギャラリー」をオープン



グラフィックガーデン1階にオープンした「グラフィックガーデン・グループギャラリー」
<https://www.nik-prt.co.jp/information/info038.html>



工場見学会コンテンツ「バーチャル工場見学へご招待!」
<https://www.nik-prt.co.jp/solution/vr/>

7 製版工程での廃液をゼロ、省資源・省エネ・省スペースを実現する「完全無処理版」を導入

2023 4 埼玉県戸田市に日経梱包加工を設立

7 印刷会社のパーパスを映像で表現したプロモーションムービーを制作・公開

8 企業のサステナビリティを評価するEcoVadisブロンズメダルを獲得

10 グラフィックガーデンの全照明をLED化、省エネタイプの印刷機「GL837P advance」を導入し、脱炭素につながる省エネを推進

2024 1 制作部にクリエイティブ、デジタルプロダクションを新設

7 創業60周年記念パーティーをホテルオークラ東京で開催

当社の創業からの歩み、紙メディアとともに未来を彩っていく想いをアニメーション動画で表現した「日経印刷60周年記念動画」を公開



新たな物流拠点として設立された日経梱包加工



廃液ゼロ、現像処理不要の完全無処理版



「日経印刷60周年記念動画」のオープニングのひとコマ
<https://www.nik-prt.co.jp/information/info040.html>

2023年に続き2024年もEcoVadisブロンズメダルを獲得



7月6日にホテルオークラ・平安の間で行われた「創業60周年記念パーティー」。会場ではホームページでの公開に先立ち、「日経印刷60周年記念動画」が上映された



印刷物への想いを込めた日経印刷のプロモーションムービーを公開
<https://www.nik-prt.co.jp/information/info039.html>



CSR REPORT

日経印刷は日々の事業活動のなかで、環境を保護し、社会の持続可能性を高めるためのさまざまな取り組みを行っています。また、ステークホルダーのみなさまとのコミュニケーションを深め、その期待に応えることで企業価値向上をめざしています。

そんな日経印刷のCSR活動をご理解いただくために、CSRレポートを2012年から毎年発行しています。



バックナンバーは

<https://www.nik-prt.co.jp/csrreport/>
でご覧ください。

日経印刷 CSR REPORTの掲載内容の一部をご紹介します

CSRレポート2015

従業員も重要なステークホルダーであるという考えに立ち、教育体系や福利厚生など、人事施策について幅広く取り上げました。特集にはグラフィックガーデンの環境活動を取り上げ、使用機器や環境活動、取り組みをご紹介します。

CSRレポート2014

お客さまとのかかわりをさらに充実させ、コミュニケーションの事例や技術的・品質的なかかわりなどを深く掘り下げました。また、初の試みとなる座談会を特集として掲載し、従業員がCSRについて語り合いました。

CSRレポート2013

前回の方向性に加え、お客さまやパートナー会社様とのかかわりを取り上げました。近隣の学校からの工場見学のご依頼にお応えし、受け入れ件数の増加にともなう深くなった地域社会との連携などもご報告いたしました。

CSRレポート2012

初めて発行したCSRレポートは、2008年から継続してきた独自の環境活動Neco-Projectや省エネ活動、ゼロエミッション活動に加え、従業員や地域・社会とのかかわりなど、従来からの地道な活動がベースとなっています。

CSR REPORT 2019

表紙デザインを一新するとともに、冊子を左開きから右開きに、文字を横書きから縦書きに変更しました。加えて内容もCSRに関する特集を主体とする構成としました。また、統合報告書では必須ともいえる価値創造モデルを掲載しました。

CSR REPORT 2018

今回から誌名の「レポート」を英文表記とし、環境の負荷を考慮してページ数を削減しました。2017年の環境活動、従業員や地域・社会、お客さま、パートナー会社とのかかわり、情報セキュリティについてご報告しました。

CSRレポート2017

自社のCSRレポート作成を通してCSRを学び、CSRレポートやCSR報告書作成のノウハウを蓄積することで、お客さまによりよいサービスをご提供することを目指しています。作成にあたっては現在もその意志を貫いています。

CSRレポート2016

地域社会が私たちに期待していること・できること・実際に行っていることをご紹介します。考え、「地域・社会とともに」のページを拡充しました。特集は組織変更が行われた生産管理部部長のインタビューが掲載されました。

CSR REPORT 2023

持続可能な未来への貢献として、EcoVadisの評価で「ブロンズメダル」を獲得、グラフィックガーデンの完全LED化を行いました。EcoVadis導入の経緯や受賞のメリット、今後の対応についての特集を掲載しました。

CSR REPORT 2022

グラフィックガーデンに、製版において現像装置を使用しない完全無処理版を導入しました。現像液使用量ゼロであることは、環境負荷の低減に大きく貢献します。特集は進化を図るオフセット印刷最前線をご紹介します。

CSR REPORT 2021

コロナ禍という状況下、訪問による営業活動の自粛は続き、リモートでの営業も芳しい成果が上がりません。そこで商談数をアップさせるプロジェクトチームが発足、「オンライン工場見学会」開発の概要を特集として掲載しました。

CSR REPORT 2020

コロナが猛威を振るうなか、その後を見据えた動きが急務になります。日経印刷の強みは何か、視点を変えることで見えてくるものがあるはず。特集は安全を第一に考えた感染予防対策グッズとコロナ下での働き方をご紹介します。

継
Kei

CSR REPORTとは異なる切り口で、

当社従業員にスポットを当てたCSRアクティブレポート「継 Kei」を2015年から2017年にかけて5冊発行しました。

タイトルの「継」は、継承・継続・中継・後継を表し、それらの言葉をキーワードに誌面を構成しています。



日経印刷 ESG セミナー

日経印刷では、企業のサステナビリティご担当者様との情報共有を目的として、有識者様と共同でセミナーを開催しています。

ESGの最新動向やトレンドをテーマとした本セミナーは、2012年から定期開催しており、毎回多くの方にご参加いただいている大好評企画です。

みなさまの情報取得の場として、本セミナーをぜひご活用ください。



第一営業部第3課
課長

北川 宏

統合報告書の作成業務のなかで得た経験やネットワークを活かし、2024年も3回のESGセミナーを開催しました。

4月25日 講師 菅原 道氏 「統合報告書を意味あるものに Whatの観点からHow観点での報告へ」

7月18日 講師 菅原 道氏 「対話ツールとしての統合報告書で企業価値を最大化」

9月19日 講師 SOMPOリスクマネジメント株式会社 飯野 ちひろ氏、梶尾 詩織氏
「ビジネスと人権 サプライチェーン全体での人権尊重に
実務担当者が取り組むポイントと最新動向について」

12月に4回目のESGセミナー開催を予定しています。

企業価値の向上、情報発信をサポートするうえで、
最新の動向をつかみながら、ご支援させていただければと思っています。



セミナー一覧表

CSRセミナーと環境優良印刷工場見学会

2012年 11月 8日(木) CSR経営のリスクと機会に関する最新動向

CSRセミナーと報告書作成現場見学会

2013年 11月 7日(木) 環境CSRの新たな潮流

2014年 3月 14日(金) 「貴社らしさ」と伝達するためのCSRコミュニケーションについて

11月 27日(金) 企業価値をわかりやすく伝える統合報告

5月 14日(木) 2014年度CSRの動向とCSRレポートのトレンド

6月 11日(木) オリンピックとサステナビリティ

2015年 7月 16日(木) 注目される外部評価と情報開示

9月 10日(木) 企業価値のコミュニケーションとESG情報

10月 15日(木) ISO14001:2015年版の発行とCSRレポートの関係

11月 19日(木) CSRレポートから分かる企業の顧客対応とこれからの消費者課題

4月 14日(木) CSR・環境報告書トレンドセミナー

2016年 9月 1日(木) 企業価値を高めるCSRコミュニケーション ～広がる・繋がる・ファン作り～

11月 22日(火) CSRレポート トrendセミナー

3月 2日(木) CSRレポート 2017トレンドセミナー

4月 18日(火) CSRセミナーと報告書制作支援のご紹介

2017年 7月 11日(火) CSRセミナーと報告書制作支援のご紹介

9月 12日(火) 企業価値につながるCSRセミナーと報告書制作支援のご紹介

10月 19日(木) CSRセミナーと報告書制作支援のご紹介

12月 7日(木) CSRレポート トrend分析 ～2017年レポートの傾向～

CSRセミナーと報告書制作支援のご紹介

3月 14日(水) 持続可能な開発目標(SDGs)とESG経営

2018年 6月 27日(水) CSRの新たな潮流

11月 27日(火) パリ協定・SDGs・ESG投資へのISO14001:2015を活用した取り組み

3月 7日(木) 2018年CSR/ESG情報開示トレンド

2019年 4月 25日(木) SDGsをめぐるリスクと機会

9月 19日(木) 統合報告書のマテリアリティと中期経営計画との連動 ～企業価値を向上させるサステナビリティとは?～

2020年 2月 21日(金) SDGs・ESG経営セミナー ～非財務情報開示の重要性～

CSRセミナー

6月 30日(火) SDGs・ESG経営セミナー ～非財務情報開示の重要性～

2020年 9月 3日(木) ニューノーマルの時代とサステナビリティ ～何が起るかわからない時代に取り組むべきサステナビリティとは～

11月 19日(木) 統合報告書「初級編」～まずは作ってしまおう!～

統合報告書「上級編」～意味のあるものを創る!～

2月 18日(木) 変わる新常态へ、サステナブルカンパニーへの変革

2021年 6月 30日(水) 気候変動リスク/チャンスを経営戦略に織り込む ～TCFDとSDGsの活用～

11月 2日(火) ESGに関する情報をどのように整理して開示するか? ～制度開示と任意開示の「統合」～

2022年 7月 13日(水) 企業価値を高めるESG情報開示戦略のつくり方

10月 26日(水) はたらく人のWell-beingを高める人的資本経営と情報開示のポイント

2023年 3月 23日(木) 2022年度 統合報告書のトレンド ～価値創造プロセスと価値創造による差別化の時代へ～

ESGセミナー

2023年 7月 5日(水) 企業価値向上に向けた人的資本経営の実践手法

11月 2日(木) 企業に求められる生物多様性・自然資本の情報開示 ～TNFD対応のポイント～

4月 25日(木) 「統合報告書」を意味あるものに ～WHATの観点からHOWの観点での報告に～

2024年 7月 18日(木) 対話ツールとしての統合報告書で企業価値を最大化:最新基準と事例を活用した実践セミナー

9月 19日(木) ビジネスと人権 サプライチェーン全体での人権尊重に実務担当者が取り組むポイントと最新動向について

ボイラーの熱と圧力でフィルムと紙を接着 高級感と強度を高める

ポリプロピレン

PP加工機を新規に導入

PP加工は、印刷物の表面をコーティングする加工のひとつで、主に雑誌・カタログの表紙や書籍カバー、ポスターなどに用いられています。摩擦などによる印刷面の傷や色移りを防ぐといった強度や耐久性に優れているばかりではなく、その光沢から高級感が増すなどの効果があります。

2024年7月、製本部では生産性の向上と節電に大きく貢献するPP加工機を新規に導入しました。



ハママツ社製 ラミネーター KL4S型(NK特別仕様)

新規PP加工機導入により 期待できること

- 生産性3割向上
- 「社内印刷→社内加工」の流れを増やすことでムダな運送コスト・時間を削減
- あらゆる仕事に対応可能

新規PP加工機導入のメリット

- 国産機導入により「部品が届かない・修理が滞る」といった機械メンテナンスの問題点を解消
- 以前は未対応の両面PPや凹凸のある紙でも対応可能
- 用紙の流す方向がタテからヨコ方向に変わり、生産にかかる時間を約3割削減

新規PP加工機の特長

- 安心の国産
- ラミネート作業においてボイラー熱源による安定かつ均一な熱分布を実現
- 自動油圧ユニットの使用による安定した高圧力の保持
- 高速カッター装置によるラミネート後の用紙を高速でカット
- 消費電気が比較的少なく経済的

初めて導入したPP加工機は、海外製でした。当初順調に稼働していたものの、注文した部品が届かない・修理が滞る・修理日数と費用が読めないといった機械メンテナンスの面で大きな問題が発生し、業務に大きな支障が出てしまいました。そのため新たな機器を選定することになり、メンテナンスの問題を解消する点からも海外製ではなく、国産の機器導入に至りました。

新しい機器はタッチパネル操作となっており、多少操作は増えましたが、メンバーにとって作業しやすくなったと思います。新しい機器に触れるチャンスになりますので、仕事にやりがいや達成感を感じてもらいたいですね。今後も継続的に新しい機器を導入していく予定なので、特に若いメンバーにとって働きやすい職場というイメージを持つてもらい、意欲的に仕事に取り組める作業環境にしていきたいと考えています。作業環境を改善することで、離職率の低下にもつながっていきそうです。

新しい機器の導入により、自動化や効率化の進展が期待できます。それは組織全体の生産性向上につながり、企業としての体力強化につながると 생각합니다。



製本部折・加工課
課長

林 隆博



封入・封緘、挟み込み、仕分け・発送作業を内製化 新たな物流拠点・日経梱包加工設立

手作業だけの工場を立ち上げ、内製化できないか……。これまで内製化できていなかった封入や封緘、挟み込み、仕分け・発送といった作業を取り込んだ物流加工を担う日経梱包加工が2023年4月に誕生しました。グラフィックガーデン、浮間工場の最寄り駅から2駅と距離も近く、工場同士の連携も万全です。



暑さ対策も万全！
猛暑日続きの2024年の夏でも快適に作業できました



ビニールの間仕切りの奥で作業をしています

日経梱包加工

住所：〒335-0021 埼玉県戸田市新曽1070
TEL：03-6758-1010

業務内容

- 冊子のOPP封入・封緘作業
- 冊子への挟み込み作業
- 冊子にシール貼作業
- 仕分け・発送作業 等

メンバー

社員4名、パート9名（2024年10月28日現在）



日経梱包加工は、久保田専務より「手作業だけの工場を立ち上げ、内製化できていない手作業系の仕事を取り込んでいくようにしたい」と話を受けたことが設立のスタートです。

工場となる賃貸物件を探し始めたのが、2022年12月の下旬だったと記憶しています。管理会社数社と連絡を取りつつ、紹介された物件情報を読みふける日々でした。

絶対に譲れない条件だけは決め、あれやこれや探しているうちに3か月が経過、ようやく条件に近い物件として見つかったのが、今の戸田市新曽にある倉庫でした。実は探し始めてから最初に目星をつけていた物件でしたが、別会社から先に申し込みを入れられてしまい、一度は諦めた物件でした。

それから3か月ほど経過した時点で、まさかのキャンセルとなり、再度物件サイトに掲載されたのです。当社含め4社が争奪戦を繰り広げるなか、契約できた物件です。稼働から7か月が経過した現在、設立の効果とまで言えるほど生産高を積み上げられていませんが、日経印刷として多少なりとも内製化できる作業が増えたと思います。

2023年4月17日、晴れて稼働となり、今に至るわけですが、思い起こしてみると何もない状態からスタートし、稼働状態までこぎつけることの大変さを痛いほど学ぶことができた期間になったと思います。

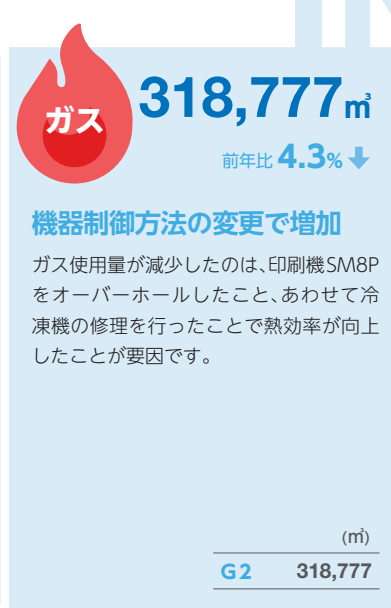
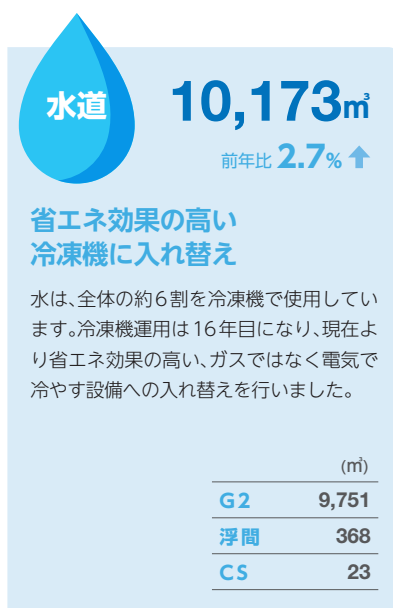


生産管理部
日経梱包加工課
課長
小川 隆太

環境配慮

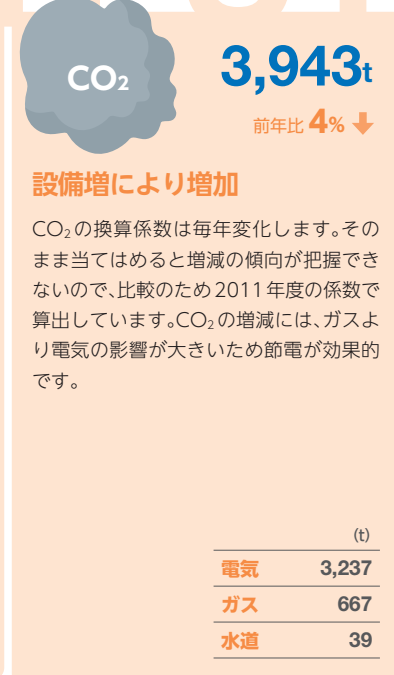
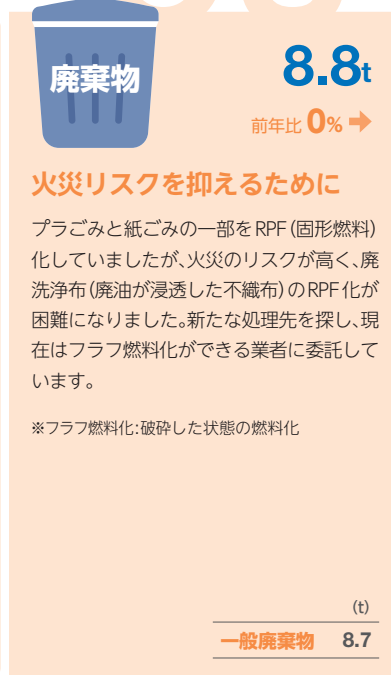
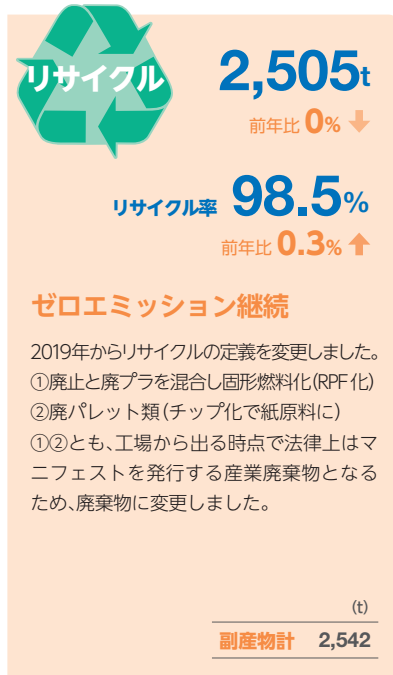
(省エネルギー・ゼロエミッション・他)

INPUT



※事業所略称 G2：グラフィックガーデン 浮間：浮間工場 CS：Creative Square

OUTPUT



エネルギー原単位集計

エネルギー原単位(全工場)		前年度原単位改善実績	
生産額	3,350百万円	12.1%	→ 1.1%
原油換算	2,170kℓ	省エネ法努力目標 年平均1%	
0.647kℓ/100万円			
排出係数	電気:東京電力2011年度排出係数(0.000375t-CO ₂ /kwh)	水道:東京都水道局排出係数(0.2kg/m ³)	
	ガス:環境省 温室効果ガス算定・報告マニュアルより	副産物計:リサイクル計 + 廃棄物計	
	千Nm ³ ×単位発熱量(45) ×排出係数(0.0136)	リサイクル率:リサイクル計 ÷ 副産物計	
	× 44/12		

FSC 認証製品をお客さまへ



FSC® CoC 認証とは

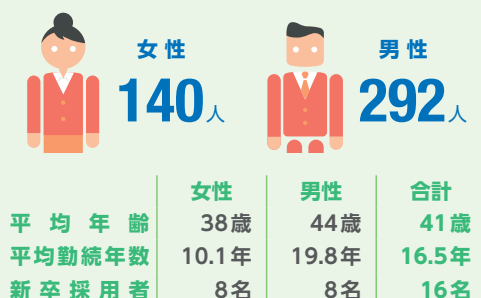
FSC (Forest Stewardship Council®: 森林管理協議会) には、森林の管理を認証する「FM (Forest Management: 森林管理) 認証」と、認証された森林から産出された木材の適切な加工・流通を認証する「CoC (Chain of Custody: 加工流通過程の管理) 認証」があり、認証材以外のものが混入しないよう、各加工・流通工程で適切に管理された製品には、その証としてロゴマークがつけられます。

企業が経済活動を行ううえで、電気やガスといったエネルギーを使用し、製品・サービスを世に送り出すとともに、廃棄物を排出することは必然です。当社では企業としての社会的責任を果たすため、環境マネジメントシステムを構築し、省エネ、廃棄物の削減と再資源化、環境法規制の遵守等に取り組んでいます。

従業員とともに

会社を支える従業員が働きやすい職場であることが安定した事業継続の要だと考えます。さまざまな人事制度のほか、人材育成の一環として資格取得支援なども行っています。

人事データ



各部署で勤務効率化をめざし、不要な残業時間を減らすよう取り組んでいます。また、出産・育児休暇などの取得も年々増加しており、ライフイベントを迎えても長く働き続けたいという社員が増えてきています。

正社員と契約社員合わせて377名、パート従業員も合わせると432名が働いています。毎年新卒社員も入社しており、若い社員の活躍が多い職場になっています。

お客さまとともに

持続的で健全な事業を継続するために、「お客さまの声」に耳を傾けることで時流を捉え、ニーズを考慮した営業活動に取り組んでいます。

ESGセミナーの開催

開催セミナー一覧

4月25日／91名
統合報告書を意味あるものに
Whatの観点からHow観点での報告へ
講師：菅原 道氏

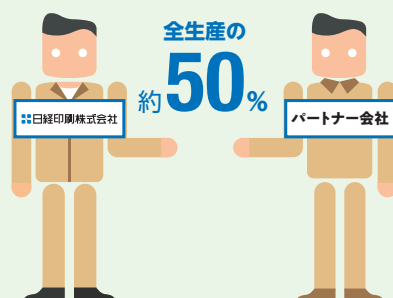
7月18日／48名
対話ツールとしての統合報告書で企業価値を最大化
講師：菅原 道氏

9月19日／106名
ビジネスと人権
サプライチェーン全体での人権尊重に実務担当者が
取り組むポイントと最新動向について
講師：SOMPOリスクマネジメント株式会社 飯野 ちひろ氏、梶尾 詩織氏

統合報告書の制作業務のなかで得た経験やネットワークを活かし、お客さまに情報発信する場として、定期的にESGセミナーを開催していましたが、2024年も従来の来場セミナーからWebセミナーへと切替えて対応しました。



パートナー会社への依頼



パートナー会社の合計 200社以上



当社は、全生産の約50%をパートナー会社に委託しており、協業はなくてはならないものといえます。現在取引をさせていただいている会社数は、製造関連のほか、配送・発送関連のパートナー会社も合わせると200社以上に上ります。「お互いに相談しあえる関係」をめざし、企業理念の「公正な購買取引の慣行」のもと、すべてのパートナー会社に対して、公正・透明な発注・購買活動を心がけています。

パートナー会社とともに

日経印刷は、パートナー会社のみならずとコミュニケーションを図り、良好な関係を構築していくことで、品質、納期、環境保全の維持向上にともに取り組んでいます。

UV 印刷機」や「完全無処理版」、「グラフィックガーデンの完全LED化」など省資源化に貢献する設備導入、さらにはESGの最新動向やトレンドをテーマとした「ESGセミナー」を2012年から定期開催するなど、歩みを止めることなく改革を続けています。社員のみなさまにはこの「CSR REPORT 2024」を通して、積み重ねてきた活動の意義や重要性を再認識する機会にしてほしいと思います。

私たちの使命は、よりよいものづくりを通してお客さま、パートナー、サプライヤー、従業員、地域住民などすべてのステークホルダーのみなさまのご期待に応えることで、サステナブル社会の実現に貢献し続けていくことです。

新たな価値創造とサステナブル社会を支える企業として成長を加速すること、そして、あらゆるステークホルダーが歓びを分かち合える社会を、社員のみなさまと一緒に創っていきたいと考えています。ともに挑戦を続ける社員のみなさまには、一層のご理解、ご協力をお願いしたいと思います。

企業情報

日経印刷の情報

日経印刷ウェブサイト <https://www.nik-prt.co.jp/> の各コンテンツをご覧ください。

個人情報保護方針

<https://www.nik-prt.co.jp/company/privacy.html>

品質方針、環境方針、ISMS基本方針

<https://www.nik-prt.co.jp/company/social.html>

認証取得

ISO 14001:EMS

ISO 27001:ISMS(本社・グラフィックガーデン)

プライバシーマーク認定(JIS Q 15001)

FSC® CoC認証

グリーンプリンティング工場認定(本社・グラフィックガーデン)

Japan Color 標準印刷認証(グラフィックガーデン)

Japan Color プルーフ運用認証(グラフィックガーデン)

Japan Color マッチング認証(グラフィックガーデン)

企業概要

日経印刷株式会社

代 表 者 代表取締役社長 廣瀬 智

本社所在地 東京都千代田区飯田橋2-15-5

電 話 03-6758-1001

創 業 1964年10月

資 本 金 8,000万円

売 上 高 109億円(2023年12月期)

従 業 員 数 438名(2024年12月現在)
(パート、アルバイト含む)

業 務 内 容 企画・デザイン、編集、ライティング/DTP、出力等プリプレス工程全般/オフセット印刷(枚葉)/プリント・オン・デマンド/製本一式/表面加工/紙器・加工/仕分・梱包・発送/CD、DVD等メディア制作/ Web制作/電子出版/白書製造請負、出版

編集方針

日経印刷はこのCSRレポートを通して「事業活動」、「社会」、「環境」の観点でステークホルダーのみなさまの期待に応えるために取り組んでいる活動を開示することにより、当社をご理解いただき、またステークホルダーのみなさまとのコミュニケーションを深め、「人の想いをカタチに」する情報加工産業の価値向上に役立てていくことを目的としています。

また、自社のCSRレポート作成を通してCSRを学び、レポート、報告書作成のノウハウを蓄積することで、お客さまにより良いサービスをご提供することをめざしています。

報告対象組織

日経印刷株式会社

報告対象期間

原則として、2023年度(2023年4月～2024年3月)の活動を対象期間としています。一部2024年度のデータも含まれています。

報告対象分野

本レポートは、日経印刷の事業活動、社会・環境に関する取り組みを対象としています。

ご意見・お問い合わせ

日経印刷のCSRへの取り組みについて、ご意見・ご感想をお寄せください。CSR活動やCSRレポートの改善に活かしてまいります。

発 行 月 2024年12月

所 轄 部 署 日経印刷株式会社 管理部門 人事総務部

連 絡 先 TEL 03-6758-1001

FAX 03-3263-5814

「CSR REPORT 2024」発行にあたって



日経印刷は今年、創業から60年という大きな節目を迎えることができました。「CSR REPORT 2024」では、これまで当社が事業を通じた社会・環境への貢献と負荷低減の取り組みの歴史をたどることができる特集を組んでいます。

当社が日々の事業活動を通して持続可能な社会実現に向けた取り組みをスタートしたのは、2000年代初頭のこと。社会課題の解決と事業を統合した企業経営が求められるなか、世の中に対して価値あるものを生み出すことを目的として、さまざまな挑戦を開始しました。2003年の環境マネジメントシステムISO14001認証取得を起点として、2008年にFSC (CoC) 認証を取得。2009年に社員有志によってスタートした「Neco-Project」は全社運動へと波及し、2012年のグリーンプリンティング工場の認定、印刷産業環境優良工場表彰での経済産業大臣賞を受賞することができました。また近年では、「LED-

代表取締役社長

廣瀬 智

12 つくる責任
つかう責任

グリーンプリンティング (GP) 認定工場「グラフィックガーデン (G2)」から
事業活動で必要とされる印刷サービス・印刷製品を調達すると、
お客さまがSDGsで目標とする「目標12: つくる責任 つかう責任」に向けた
具体的な取り組みとして実行したことになります。



グリーンプリンティング (GP) 認定とは？

GP認定制度は、日本印刷産業連合会が認定機関となっており、日印産連「各印刷サービス」グリーン基準に基づき、客観的な証明によって認定され、認定マーク (GPマーク) が表示できる制度です。

印刷工場・資機材・印刷製品のそれぞれに対する認定制度によって成り立っています。

GP 認定とSDGs



GP認定は、地域住民から地球規模での環境対応が基準となっています。この基準は、随時見直され、労働安全衛生、緊急時対応の基準の追加などが行われています。SDGsで掲げられた「目標12: 持続可能な生産消費形態を確保する」に対応し、つくる側の要件を満たすことができます。

VOCの発生・
排出抑制等水なし印刷
湿し水の管理等

省エネ活動等



省エネ活動等



古紙のリサイクル

リサイクル製品の使用

デジタル化等

森林保全に配慮した
資材の使用

SDGsとは

「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称です。エス・ディー・ジーズと呼ばれます。SDGsは2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた国際目標です。17の大きなゴールと、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されています。

持続可能な社会を目指す世界共通目標は昨年から企業レポートのトレンドとして取り上げられています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



印刷物に GP マークを表示するには？

- GP認定工場で印刷を行い
 - 印刷資材の環境配慮について一定水準以上を満たす場合
- 1・2を満たし、工程の環境配慮が全工程か否か、印刷資材の配慮水準がどのレベルか、この組み合わせによってワンスターからスリースターまで3種の表示があります。スターの数が多いほど環境配慮の度合いが高いことを示します。



GREEN PRINTING JFPI
F-D10008
グラフィックガーデン
本工場は、環境に配慮
したGP認定工場です。

GPマークは、印刷製品の製造工程と印刷
資材が環境配慮されていることを示します

認定工場の認定番号

認定工場名



GREEN PRINTING JFPI
F-D10008
Sustainable Development Goals
印刷と環境に配慮された工場

環境配慮の度合いを3段階で表示

日経印刷

検索